

武蔵野プレイス（仮称）
基本設計（修正版）の概要について



平成 19 年 10 月 12 日
担当課 企画政策室 企画調整課

武蔵野プレイス（仮称）基本設計（修正）概要について

1. 武蔵野プレイス（仮称）がめざすもの	…………… P 2
2. 新たな設計提案	
(A) 空間デザイン	…………… P 3
(B) 空間ブラウジング	…………… P 5
(C) 外観デザイン	…………… P 7
(D) 周辺環境と共にある建築	…………… P 8
(E) コミュニケーションのための場	…………… P 11
(F) アーカイブのための場	…………… P 13
(G) ワークプレイスと活動支援	…………… P 15
3. 施設機能	
1F「プラザ」	…………… P 17
2F「コミュニケーションライブラリー」	…………… P 19
3F「ワークオフィス」	…………… P 21
4F「ルーフサロン」	…………… P 23
B1F「メインライブラリー」	…………… P 25
B2F「スタジオ」	…………… P 27
B3F「駐車場・機械室」	…………… P 29
4. 立面イメージ図	…………… P 31
5. 断面イメージ図	…………… P 33
6. 建物概要・面積表	…………… P 35

1. 武蔵野プレイス（仮称）がめざすもの

※以下「武蔵野プレイス」と呼ぶ

武蔵野プレイスは、「武蔵境のまちづくり推進」の一環として「図書館をはじめとした知・文化・自然・青少年をテーマとする文化施設」として整備されるものです。

図書館、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させた「知的創造拠点」です。

すなわち、知や活動の共有と集積、創造のために、人と人をつなぐという新しいサービスを展開するための施設です。

カフェとギャラリーと図書館が融合したような『プラザ』、
巡ることが楽しい書架、快適な読書環境、
子どもと一緒に親も読書ができる『コミュニケーションライブラリー』、
静かで集中できる『ワークテラス』、気軽に打合せのできる『スペース』、
青少年の居心地のよい場所、緑豊かな公園など、
魅力的なスペースには市民が自発的に集まってきます。

公園のように気軽に多様な市民が集い、
あるときは、暮らしをより豊かにするようなテーマで調べものをしたり、
あるときは、偶然やっていたカフェトークに影響を受けたり、
またあるときには、自分の仕事や興味を生かしたレクチャーの講師になったり…

人と人が出会い、対話しやすい場を設え、それぞれが持っている知識や知恵や経験を共有・交換しながら、知的創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような新しい時代の公共施設をめざしています。

ここでは、このような施設のあり方を「プレイス」（場）と名付け、同時に施設の名称を「武蔵野プレイス」としています。

「武蔵野プレイス」は、自発的で共感し合う実践的な活動への『参画』を生み出し、地域力を高めていきます。

拡張された図書館×地域の知の共有×知的活動を通して人と人が出会う場

2. 新たな設計提案

(A) 空間デザイン

「ルーム」という概念

前回の基本設計案においては、室内全体は展示場のように大きなスペースがあるのではなく、それぞれのスペースが部屋の落ち着きをもちながらつながっていくという構成でした。その「ルーム」という考え方は今回も継承しつつ、より明快になっています。

人びとが集まる場というものは、たとえば1本の樹の下になぞらえることができます。1本の樹木が生み出す木陰のような空間性は、人びとを自然に引き寄せ、やすらぎを与えます。ここでは人びとはリラックスし、自然な語らいが生まれ、コミュニケーションの輪が広がっていくことでしょう。

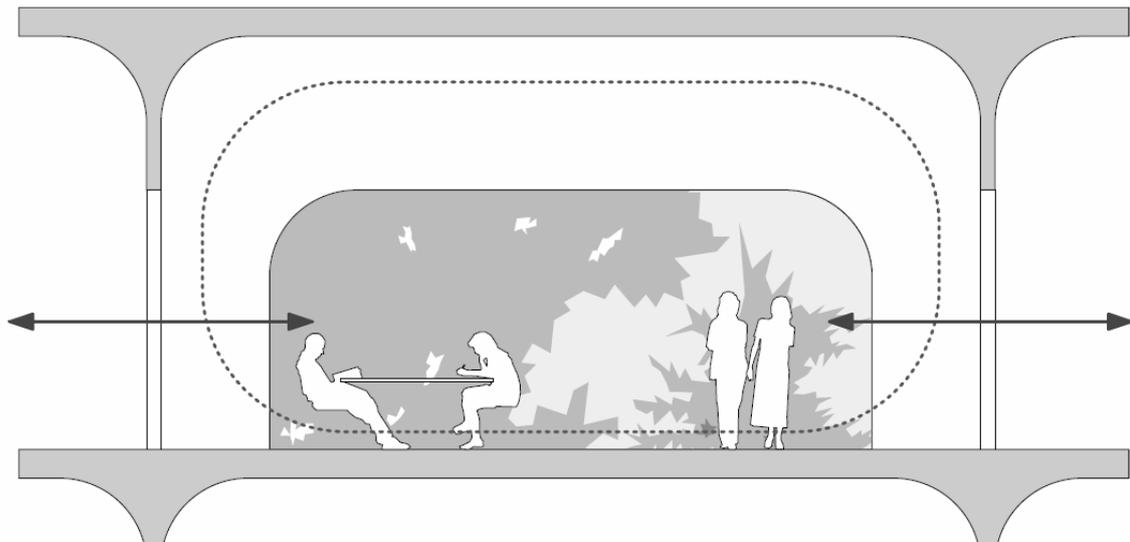
今回武蔵野プレイスにおいて実現したいと考える「ルーム」という考え方は、いわばこの1本の樹がもたらす効果を建築空間によって作りあげたいということです。オフィスビルのような均質で事務的なスペースをパーティションで囲うというような従来のやり方ではなく、空間そのものが人びとを包み込み、魅力あるスペースとなるということです。そうしてはじめて長時間読書したり知的な交流が生まれるような、本当の公共空間としての場が生まれるのです。



「エッジ効果」

人びとが集まるのにふさわしい空間性をつくるために、角部を丸くし、やわらかいイメージを与えています。“モノ”はほんのちょっと角を丸めるだけでひとにやさしいものになることがあります。空間もそれと同じことが起こり得ます。全体を曲面にするのではなく、ほんの一部の端部を丸くするので、機能面を損なうことなく、最小の設えで最大の効果をあげることができます。

このような「エッジ効果」によって、空間に包み込まれるようなやわらかさとゆるやかな求心性をつくり出し、落ち着いて読書や知的活動に集中することができるようになります。



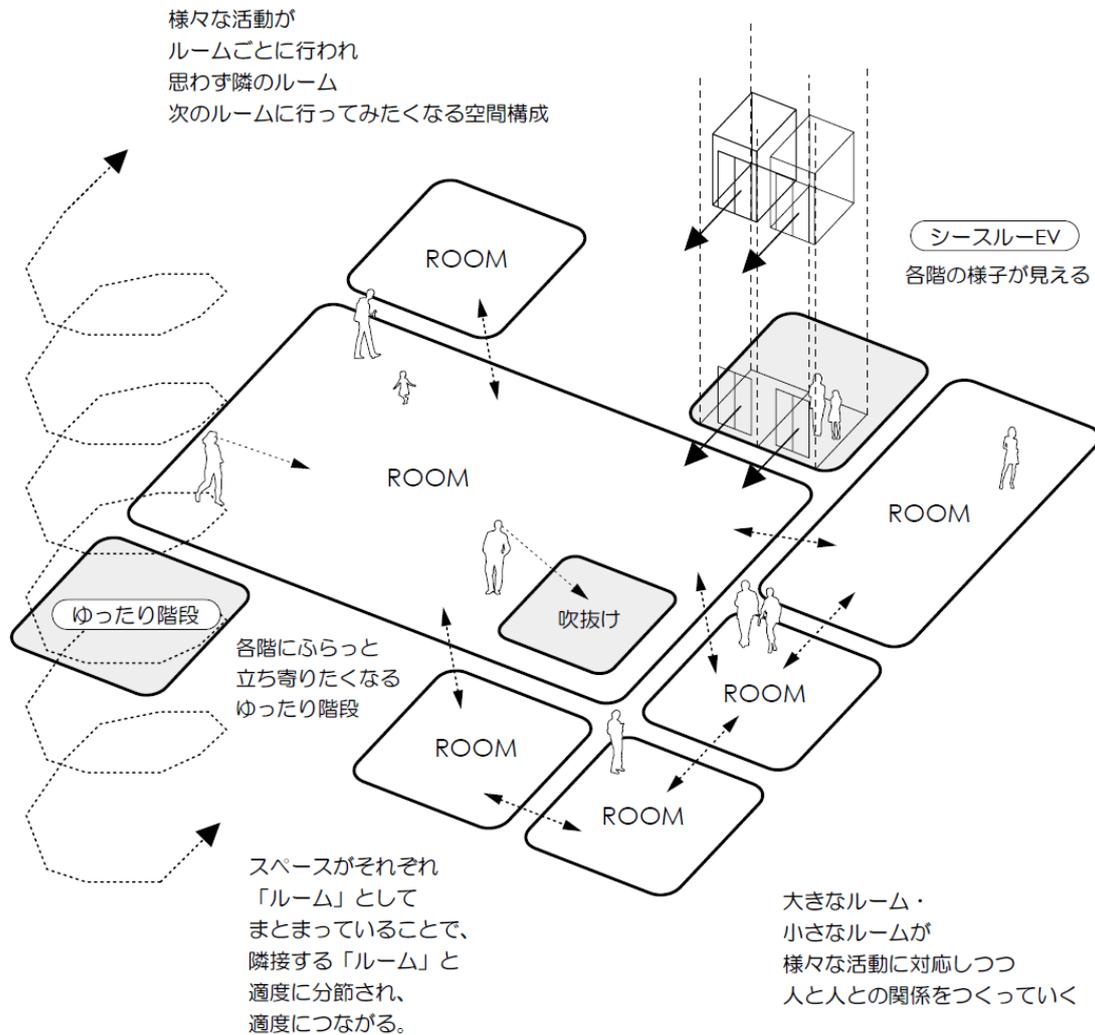
(B) 空間ブラウジング

前回の基本設計案では、3つの階段によって動線を引っ張り、回遊性を誘導していましたが、今回の修正案では、空間そのものが回遊性をうながすように考えられています。

全体の室内構成は、十分な連続性をもちながらも、それぞれがまとまった部屋のイメージをもっています。そして隣接するスペース同士は大きさが異なっていたり、少しずつ色や仕上げが変化するなど、雰囲気の違いを感じさせながら、それらが次々とつながっていくという構成になっています。このような構成によって、今ここのスペースから向こうのスペースに行ってみようという気分が生まれるようになります。すべてが大きなワンスペースに設えられているオフィスビルのような場合と比べて、この建物はいろいろなスペースがそれぞれの独自性を保ちつつ、十分な開放性をもってつながっていくことで、自然に回遊が生まれるようにデザインされています。この「空間ブラウジング」は、西洋建築の考え方と日本建築の考え方の融合とも言え、今回の空間デザイン上の大きな特性となっています。



新しいブラウジング



このような工夫に加え、各階の性格付けを明確にしていくことで、階と階との違いが人の移動を呼び起こすことにつながります。さらにエレベーターを各階のオープンなスペースに向けてシースルー化することによって、途中の各階を一望でき、タテの交流をうながしていきます。

『コミュニケーションカフェ』や『ワークテラス』など、機能面でも垂直の移動を促しやすい仕掛けがある他、ガイドツアーなど各階をめぐるソフト的なプログラムも予定されています。

（C）外観デザイン

公共建築がめざすべき特質とは、いわば「新しい普遍性」というべきものだと考えます。それは、新しくもあり、そして同時に古くからそこにあるかのようなたたずまいとして現れてきます。

そのために、過去のよい建築を分析しつつ、長い時間の使用に耐え、市民に長く愛されるような建築をめざします。シンプルな構造を前提としながらも、開かれた新しい公共性を体現するようなデザインとしていきます。

左官、石、コンクリート、木等、できるだけ自然の素材を用いた仕上によって、居心地の良い、気持ちのよい場をつくります。



(D) 周辺環境と共にある建築

自然を感じる心地よい環境の創出

北側の公園、西・南側の落葉高木という環境と共にある武蔵野プレイスは、さらに屋上緑化を行い、これらを自然の環境装置と見なし、夏場の直射日光を遮りつつ、緑に散水することで打ち水効果による涼風を生みだし、機械空調にかかる負荷を低減します。このことにより建物内部への恩恵に留まらず、公園や道を歩く人々にも心地よさを提供します。また建物の半分を地下化することで負荷を大幅に軽減しエネルギー消費を押さええます。

建物を閉ざして建物内だけの温湿度環境を考えているだけではエアコン廃熱によるヒートアイランド現象の悪循環から逃れられません。四季の豊かな日本において、換気中心のエアコンに頼らない中間期を長くすることでランニングコストを抑え環境に優しい建築をめざします。

このようなナチュラルな手法をサポートするよう機械設備の上でもライフサイクルコストの軽減及びCO₂発生の低減につながるような計画をします。

武蔵野プレイスの建築の考え方(まとめ)

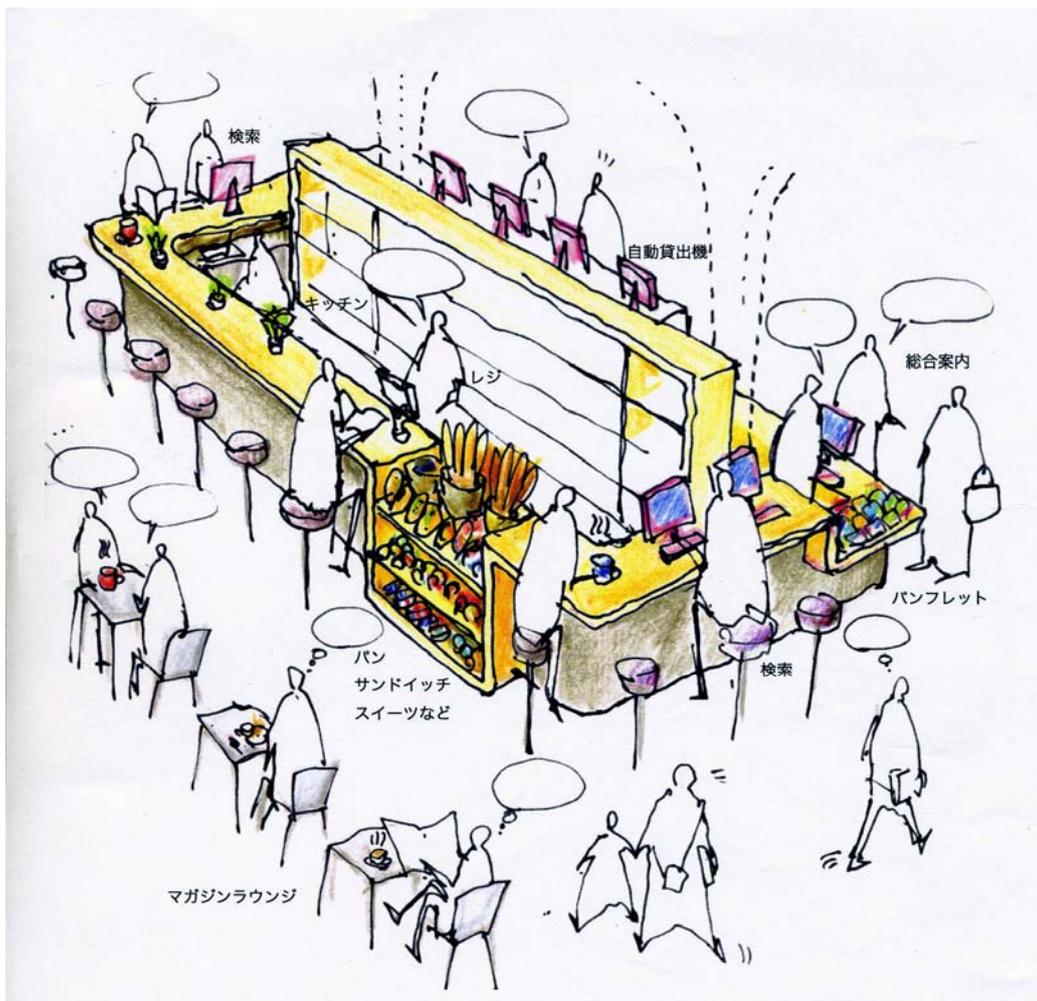
	前回基本設計案	今回修正案
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動を同時に受け入れ人と人、人と情報の出会いを誘う場 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に同じ
内部空間 (室内)	<ul style="list-style-type: none"> ・勾配天井と斜めの壁によって、場所ごとにまとまりのある場(「ルーム」)を形成し、それらが次々とつながっていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方は基本的に同じ ・「エッジ効果」によりそれぞれの部屋としての落ち着きをより増進 ・人にやさしい包み込むような空間 ・各階中央あたりに広場的スペースを確保し、より交流しやすい環境をつくる
外観	<ul style="list-style-type: none"> ・公共建築として長く愛されるような設え ・エイジング(時を刻むような素材感) 	<ul style="list-style-type: none"> ・やわらかさを加え、より親しみやすい新しい公共性を体現 ・数種の仕上げで多様性を付加したエイジング
構造 (経済性)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな柱ピッチ(スパン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り整形(スクエア)、均等スパンでより明快な構造形式とし、コストダウンをはかる
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境との調和 ・地下化によるエネルギー負荷の軽減 ・ライフサイクル・コスト、CO2の低減 ・屋上緑化・散水 ・ヒートアイランド防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にすべて継承(さらに増進) ・窓面積の削減によりエネルギー負荷のさらなる軽減
ブラウジング	<ul style="list-style-type: none"> ・「動線ブラウジング」 (3つの階段による回遊性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「空間ブラウジング」 (空間の差異性による回遊性) ・シースルーエレベーターをオープンスペースに向けて導入



(E) コミュニケーションのための場

武蔵野プレイスには、コミュニケーションが活発になり、人と人、人と情報が出会うさまざまな場が用意されます。

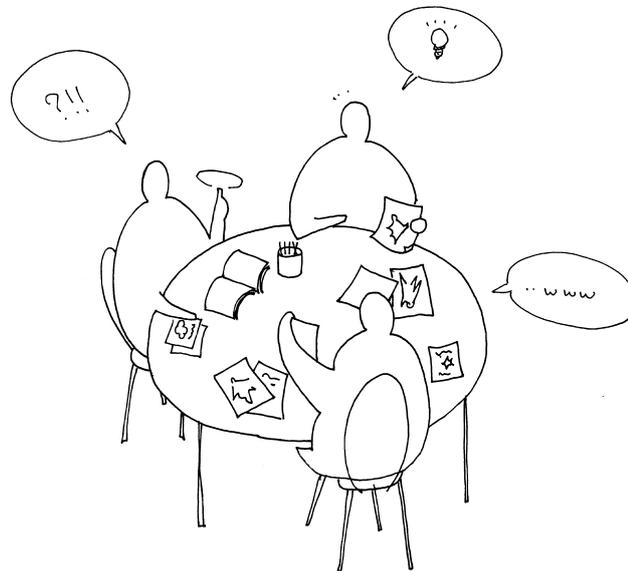
カフェテーブルでお茶を飲みながら読書をしていると、ふとテーブルの上に置かれたお知らせプレートに「屋上緑化の体験談を探しています」と書かれているのが目に入った。実はうちでも屋上緑化をしたいと思っていたところだ。カフェカウンターでこのことについて知りたいと聞いてみた。すると、3F 利用者の発信だとわかり私書箱サービスを使って連絡をしてみたかどうかというのだ。早速メンバの一人と会えることになった。



コミュニケーションカフェ

個人やグループが情報を発信し、PR するための場や、外部からの意見や共感の輪を広げるためのイベント空間も重要です。人と人とのネットワークを広げたり、新たな知や経験が集まることで地域も成長していきます。もちろん、打ち合わせや作業のための空間も用意されます。

息子はいつも中学校からプレイス B2 に直行。何をやっているのと聞いても「雑誌づくり。」とだけ。イラストの描き方とかインタビュー術とか、本を借りているけど。でもこの間、B2 の学生にビデオ編集の講師をしてもらったと 3F で知り合った NPO の人が言っていた。興味がある同士が集まって何かに打ち込んでいるのはいいことか。



(F) アーカイブのための場

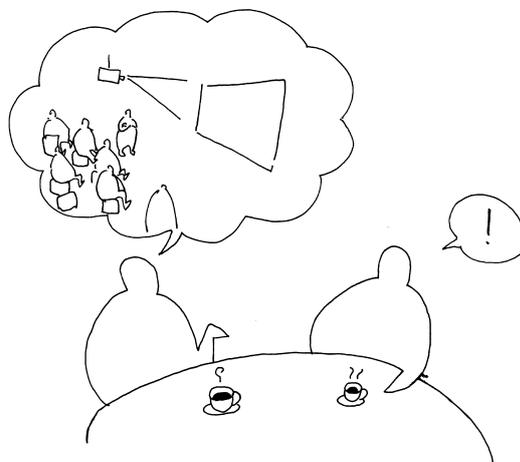
※アーカイブ=情報の収蔵を示す

武蔵野プレイスには、アーカイブのためのさまざまな場が用意されます。アーカイブを検索する場、アーカイブを閲覧する場、アーカイブをつくり出していく場などがあります。

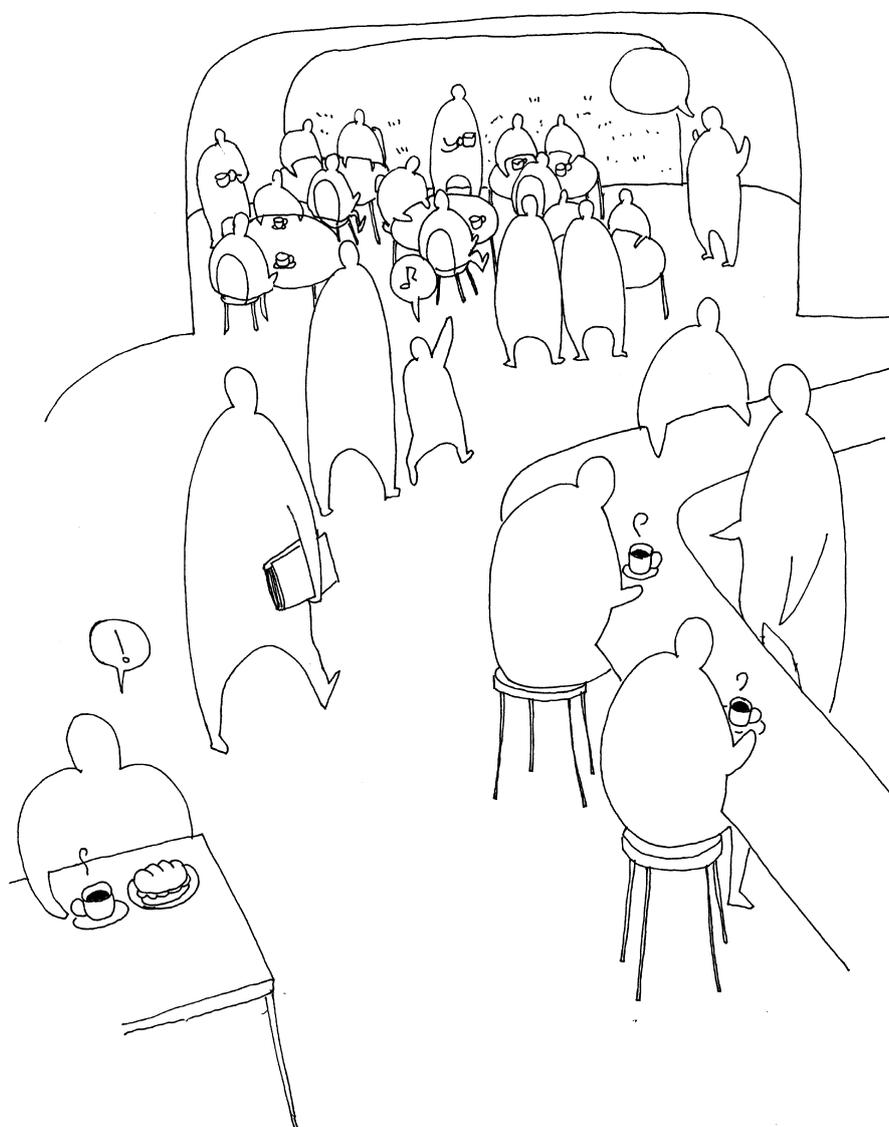
最近年齢のせい、私は健康に自信がなくなっていました。そんなある日、2Fの「健康」コーナーで、書架に書かれた「健康食」「長寿法・健康法」「腰痛・肩こり・痛み」「ヨガ」などのサインを見ているうちに、私も何かやってみようと思立ちました。カフェにある端末で検索してみると、関連する講座が先月行われたばかりでした。



いつでもパソコン画面で収録映像を見ることができましたが、翌日午後2時からその映像がフォーラムで再放映される予定でした。放映後に同じ思いの人が見つかるかもしれないと思って、翌日フォーラムで見ることにしました。



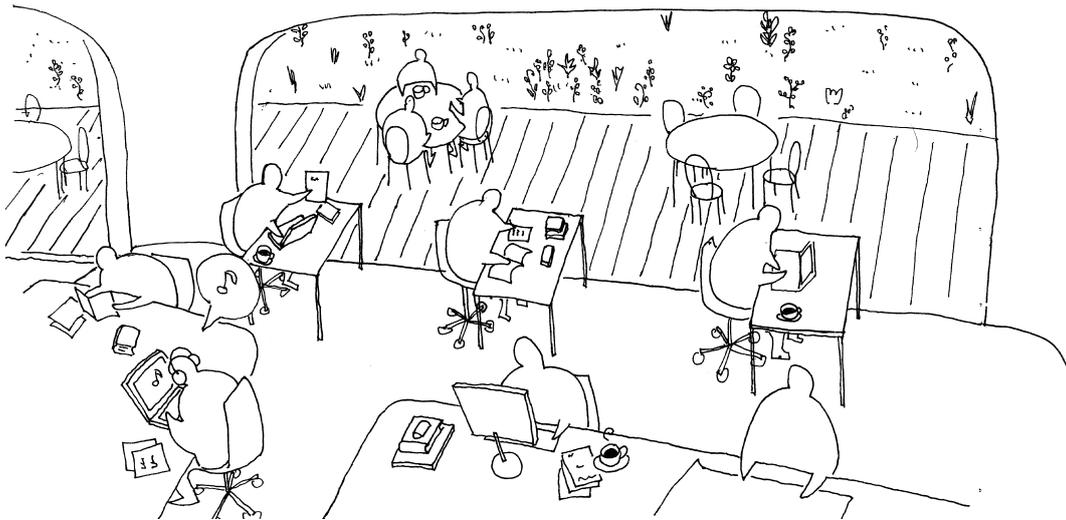
フォーラム、地域にある大学などで行われる、講座やトークセッション、ワークショップなどのイベントのうち、特に市民が「暮らし」の中で興味をもつテーマ（例、衣食住、まなび、しごと、健康、環境、文化等）のものについては、積極的に映像として記録して、蓄積していきます。



(G) ワークプレイスと活動支援

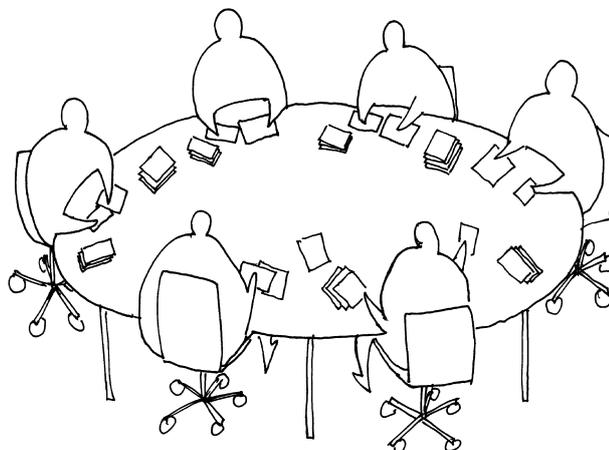
武蔵野プレイスには、さまざまなワークプレイス（仕事場）と活動支援が用意されます。予約ができて静かに集中できる書斎のような場、個人やグループが情報を発信するための印刷や紙折り作業などを支援する場、新刊雑誌をまとめてチェックするスペース、商用データベースを使って調べ物をする場などがあります。

現在会社員である私は、平日は自由な時間が限られているので、早く帰れる日にはホームページから 4F ワークテラスの席を予約しておきます。夕方から閉館までゆっくりと使えるので、将来独立するための資格取得の勉強がはかどります。

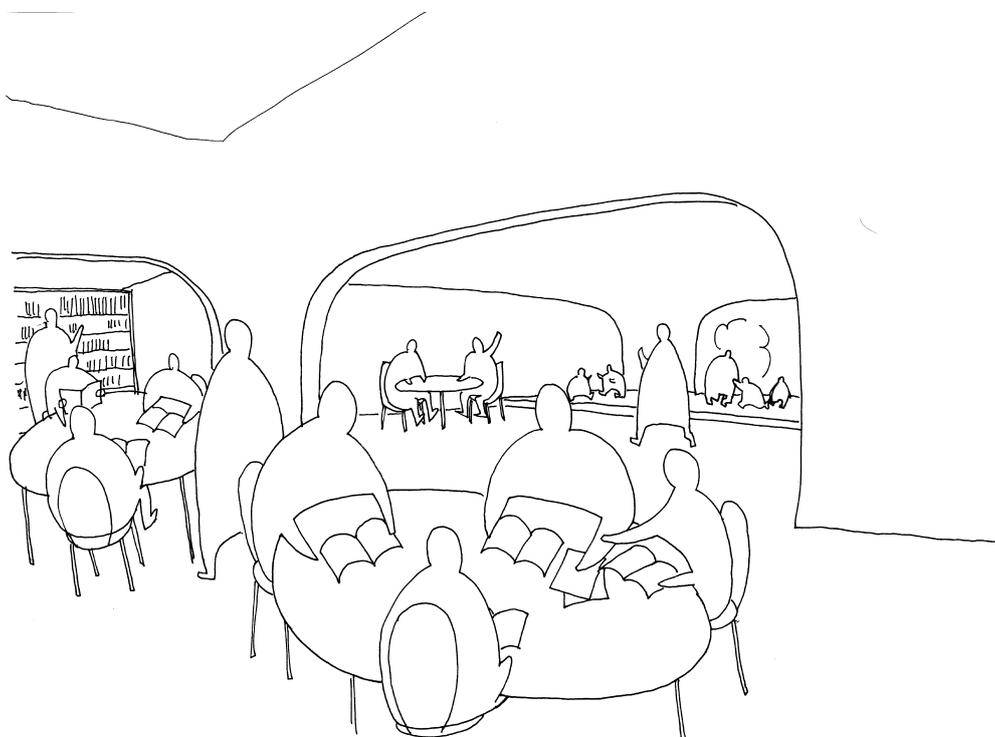


4F ワークテラスは個人が書斎代わりに作業ができる予約可能な席をつくり、自律的な知的作業を支援します。

昨年、定年退職しましたが、第二の活動の場として仲間と NPO を立ち上げました。その活動には案内状を数多く発送する作業があり、いつも 3F で印刷をし、紙折り機を借りて封筒詰め作業をしています。最近は NPO 同士でも助け合って、手が空いている人が忙しそうな NPO を手伝うので、すぐに終わってしまいます。こういうのも「ワークシェアリング」っていうんでしょうかね。



3F では、個人や NPO やグループによる市民活動に必要なノウハウや知識、作業環境、機材などを支援します。



3. 施設機能

●フロア及びコーナー名称は仮称です

1F『プラザ』

フロアの中心には、『コミュニケーションカフェ』があり、ゆったりと時間が過ごせます。飲み物や軽食ばかりでなく、さまざまな情報、案内サービス、対話も提供していきます。お茶を飲みながら本を読む、軽い打ち合わせをする、カフェスタッフから館内のイベントや活動情報を聞くといった、まったく新しいコミュニケーションの場が準備される予定です。

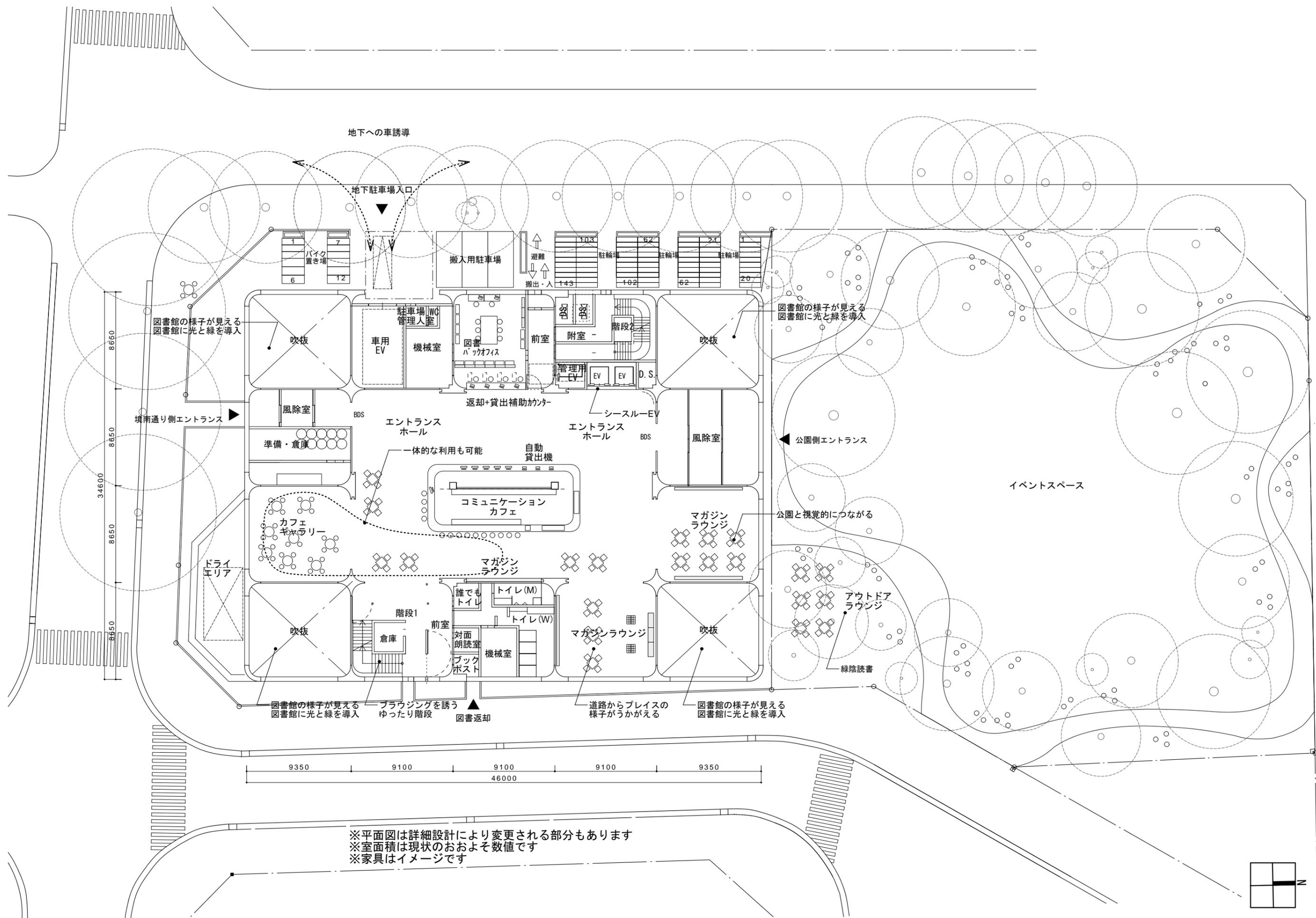
境南通り側には、施設の顔として活動成果を発表、PR したり訪れた人に知的な刺激を与えるようなイベントができる場として『カフェギャラリー』が用意されます。多くの人に新たなテーマ、気づきを与え、それによって人のつながりをつくり出すイベントスペースです。カフェエリアと連続して使えば、イベントの内容がにじみ出て1F 全体に広がるような演出効果が期待できます。

イベントのないときはマガジンラウンジの延長としてお茶を飲みながらゆったりと雑誌の閲覧ができます。

公園側にあるのが、『マガジンラウンジ』です。大型書店並に最新刊の雑誌、約 500 タイトルが並び、利用者が座席でお茶を飲みながらゆっくりとページをめくる光景に、これまでの図書館とは明らかに違う読書環境の提供サービスを感じるでしょう。新聞約 30 紙もここに並置します。

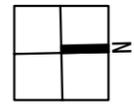
貸出は、コミュニケーションカフェのすぐ後ろ側にある『自動貸出機』で利用者自身が行います。IC タグによりスキャナー台に載せるだけで一括で簡単かつスピーディに行えます。返却はその向かい側の、『返却カウンター』で行います。

また、フロア東側には、障がい者サービスのための対面朗読室を設けています。



※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです

0m 5m 10m



1階平面図

2F『コミュニケーションライブラリー』

ここは、児童図書と生活関連図書があり、親子や家族で楽しめるフロアです。

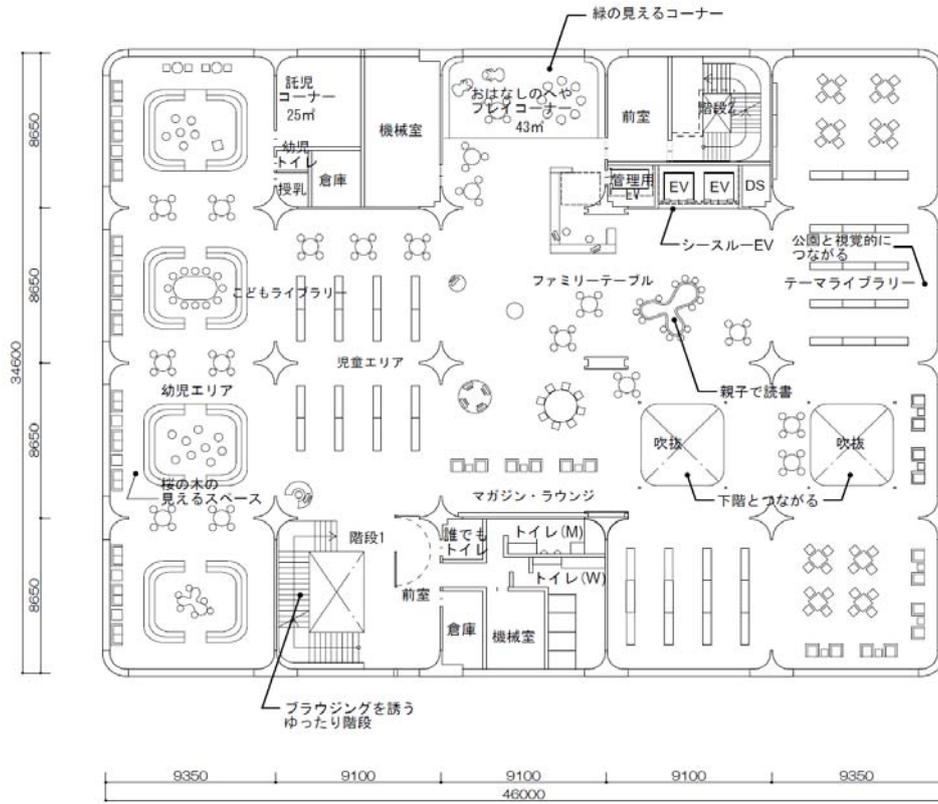
フロアの中央部分には、親子や家族でいっしょに読書が楽しめるスペースである『ファミリーテーブル』があります。

南側にある『こどもライブラリー』は、主に乳幼児から小学生高学年までを対象とした約3万冊（蔵書可能数）の図書が並んでいます。

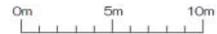
北側にある『テーマライブラリー』は、生活関連図書として料理・手芸・家庭医学・健康・教育・子育て・ガーデニングなどをはじめとした、日常生活に関連した情報が得られる図書約2万5千冊の蔵書が可能です。

これらの書架は、従来の図書分類法（日本十進分類法:NDC）にとらわれることなく、利用者が興味あるテーマは何かを考え、そのテーマ毎に書架をつくっていく予定です。

西側には、『おはなしのへや／プレイコーナー』があります。窓の外には緑が広がり、子どもが靴を脱いで自由に遊んだり、時には「おはなしの会」などが開催され、親子や家族で本の楽しさを味わうことができるスペースです。また、例えば、お子さんがいらっしゃる方が「図書館でじっくり調べ物をする」、「市民活動に参加する」、「生涯学習の講座に参加する」ための、主に託児サービスのスペースとして『託児コーナー』を設置しています。



※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです



2階平面図

3F 『ワークオフィス』

ここは、NPO 活動、生涯学習・文化活動などをはじめとした様々な市民・文化活動のサービスステーションとして気軽に立ち寄れて、打ち合わせや、情報収集、相談、印刷などの作業を集中的に行えるフロアです。

中央に広がる大きなオープンスペースが『ワークラウンジ』となっています。数名が座れるテーブルとイスのセットが間隔を空けて配置され、グループ単位で借りて、気軽にミーティングや資料作成、発送などの作業が行えます。

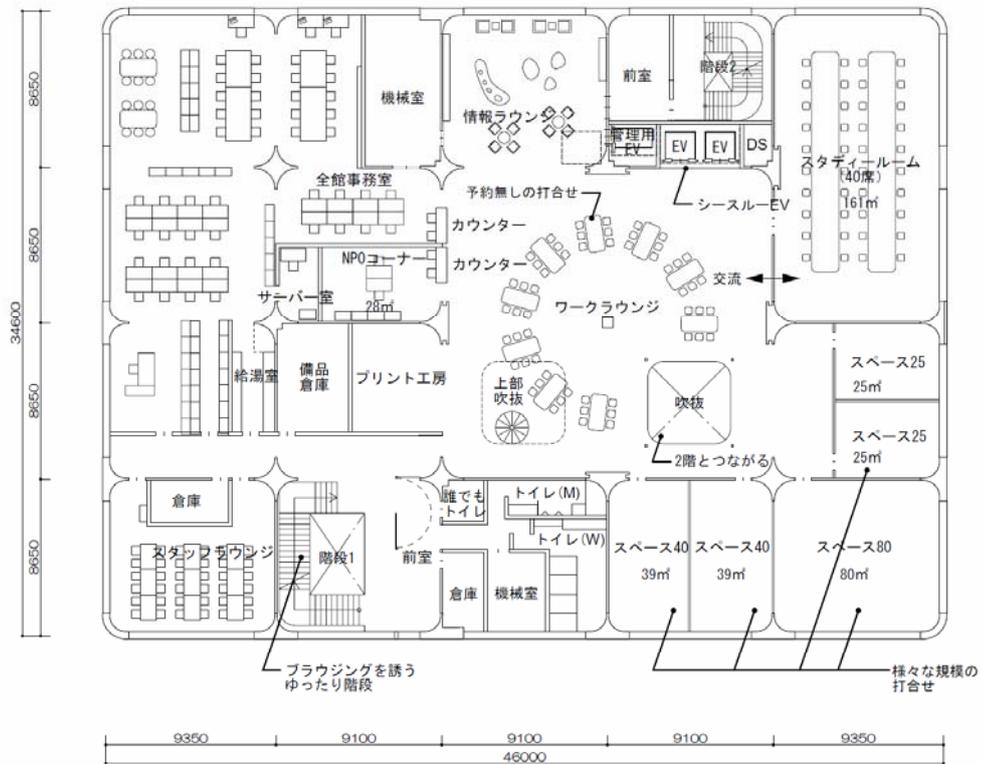
カウンターでは、利用グループの登録や、ワークラウンジの利用受付をはじめとして、市民・文化活動に必要な印刷機器やそれに伴う事務機器の利用受付、活動に関する相談受付など、『ワークオフィス』全体の受付窓口です。

ワークラウンジに隣接した西側には『情報ラウンジ』があり、活動グループのレターケースのほか、市民・文化活動に関する情報掲示ボードも設置されています。窓の外に広がる緑を楽しみながら誰もが『ワークオフィス』で行われている市民・文化活動や生涯学習に関する情報の閲覧ができるようになっています。

『プリント工房』は、活動で使用するチラシ、報告書などの作成のために必要な印刷機器などが設置されています。

ワークラウンジの周囲には会議用ルーム『スペース』を設置します。市民・文化活動での会議打ち合わせや生涯学習の教室、一般のグループの打ち合わせなど、様々な用途に合わせて、複数の広さの部屋が用意されています。

北側には『スタディールーム』があります。約 40 の席数があり、読書、調べもの学習などに利用できます。



※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです



0m 5m 10m

3階平面図

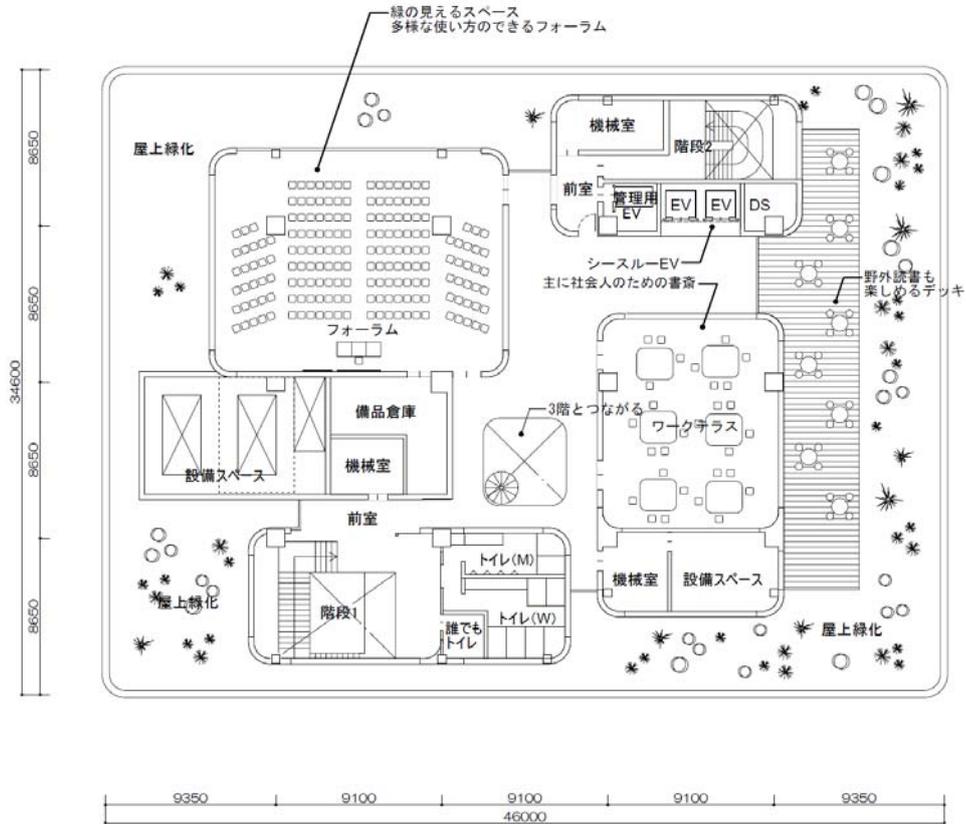
4F 『ルーフサロン』

このフロアは、レクチャーをキーワードとして人々が集まる『フォーラム』、個人が自由な発想で活動できる『ワークテラス』があります。

『フォーラム』は、生涯学習、市民・文化活動のためのレクチャーイベント（講演、講座、ワークショップなど）や発表、会議の場として利用します。室内は、ワークショップ、会議などによって様々なバリエーションでの利用が可能です。

『ワークテラス』は、社会人を中心として、リタイヤされた方、主婦や学生の方などで、会社や自宅では個人の学習・文化活動のためのワークスペースや時間を取ることが難しい方のための、ミニ書斎的な機能を持たせたスペースです。思索に耽り、アイデアを練り、企画を構想したり、文章を執筆したりと、集中して発想作業や知的創造作業をするのに適した環境を提供します。

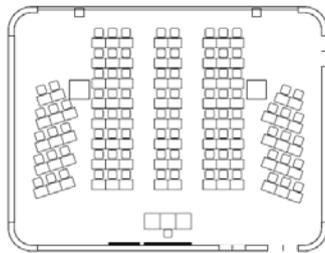
このフロアの周囲には**屋上緑化**が施されています。また、公園側はテラスになっており、気候のいいときは、屋外で読書を楽しむことができます。



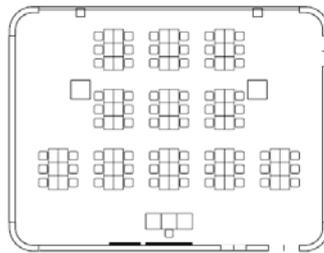
※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです



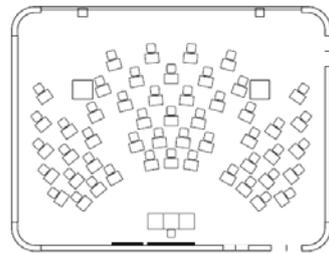
0m 5m 10m 4階平面図



会議スタイル



ワークショップスタイル



プライベートスタイル

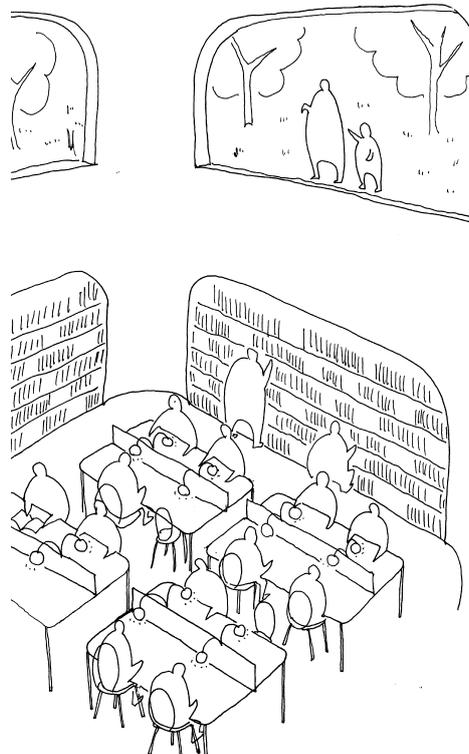
B1F『メインライブラリー』

このフロアは、約7万5千冊の一般図書が蔵書可能な書架を備えています。地階という利点を生かし、壁面書架を採用することにより、本に囲まれた理想的な空間が生まれ、その結果、閲覧席を充実することができました。フロアの四隅に十分に用意された吹き抜けが、地階という落ち着きと、採光と緑の見える開放的な環境の両面を実現します。

このメインライブラリーでは、2Fのテーマライブラリーがテーマ毎に書架をつくるのに対して、従来の図書館の分類法に従った分類番号順の書架配置とし、より検索性を高める配慮をしています。

中央付近には、蔵書検索や、インターネットブラウジング、オンラインのデータベース検索システムが利用できるパソコン端末を充実させた『サーチバー』を設置します。

フロア西側には、レファレンスにも対応できるカウンターや、障がい者サービスのための録音室を設けています。



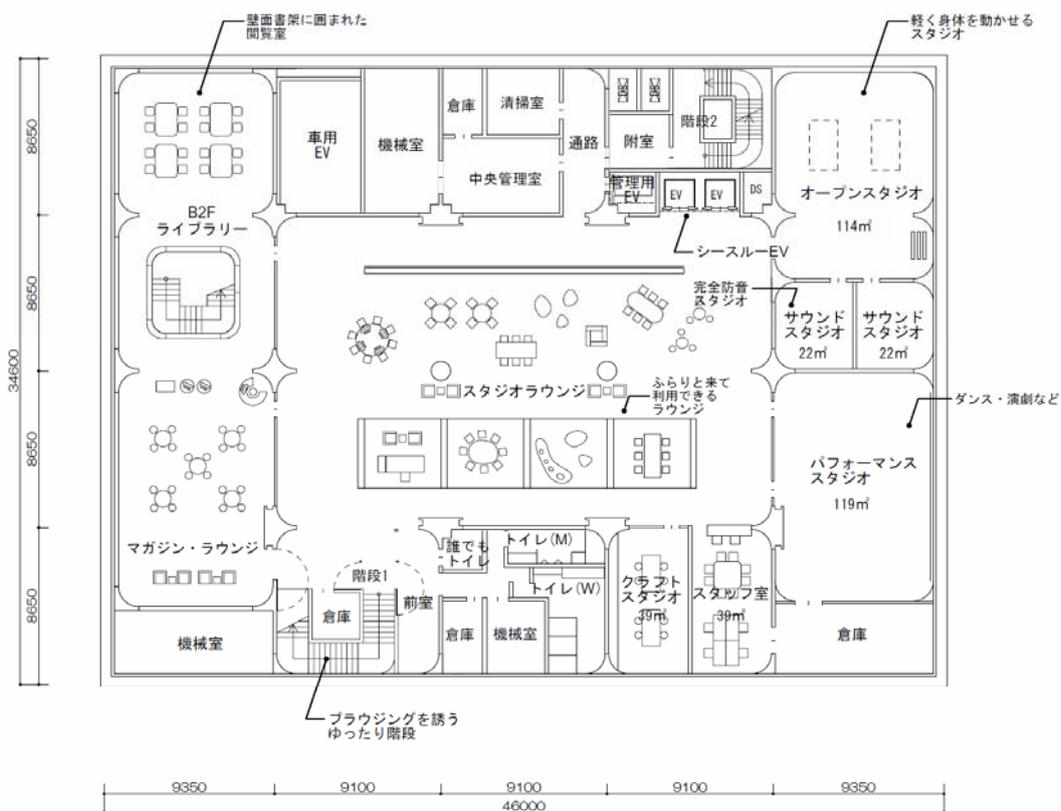
B2F 『スタジオ』

このフロアは、「青少年の居場所」をキーワードに、主に小学高学年から高校生を中心に青少年が自由に利用できるオープンスペース『スタジオラウンジ』と、各種スタジオ群、デザイン・文化などをテーマとした図書や青少年をターゲットにした図書エリアがあります。

『スタジオ』は、敷居を低くした、自由に利用できる広い『スタジオラウンジ』を中心につくられています。スタジオラウンジは、青少年による運営委員会によって目的や考え方を協議しながら、家具レイアウトを自分たちで変更していけるようなスタイルになっています。

周囲には卓球など軽い運動などができるセミオープンなスペース『オープンスタジオ』、完全防音を施し、バンド練習などができる『サウンドスタジオ』、セミ防音を施し、ダンス、演劇、コーラスの練習などができる『パフォーマンススタジオ』、美術・工芸、手芸などが行える『クラフトスタジオ』を備え、自主的な創作活動などの場を提供します。

また、フロア南側にはデザイン系や映像、音楽、映画などを中心としたアート関係の図書や、従来のヤングアダルト図書ばかりでなく、スポーツや就職関係など青少年により身近な話題の図書を中心に、約1万5千冊の蔵書が可能な図書コーナー『B2F ライブラリー』を設けています。



※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです



0m 5m 10m

地下2階平面図

B3F『駐車場・機械室』

このフロアは施設利用者用の駐車場と機械室があります。
各階への移動をスムーズに行えるように、エレベーターの近くにハンディキャップのある方用の駐車場を設置します。

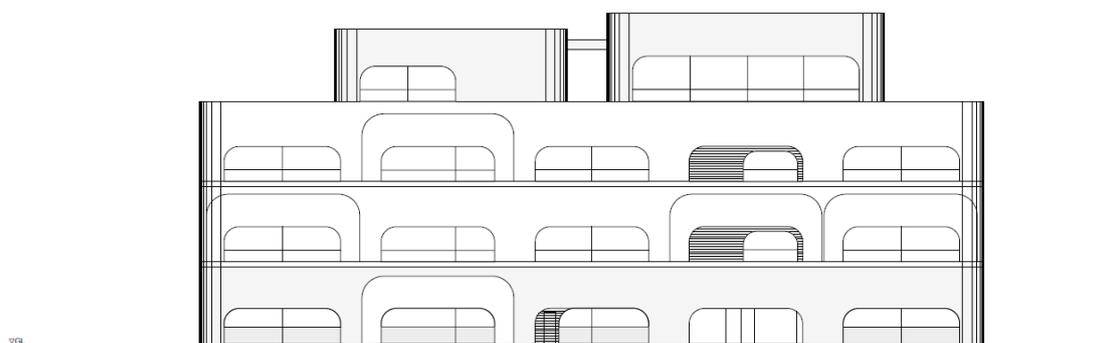


※平面図は詳細設計により変更される部分もあります
 ※室面積は現状のおおよそ数値です
 ※家具はイメージです

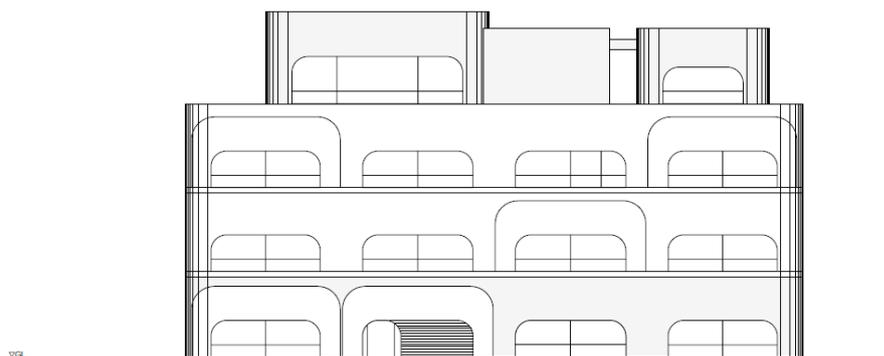


地下3階平面図

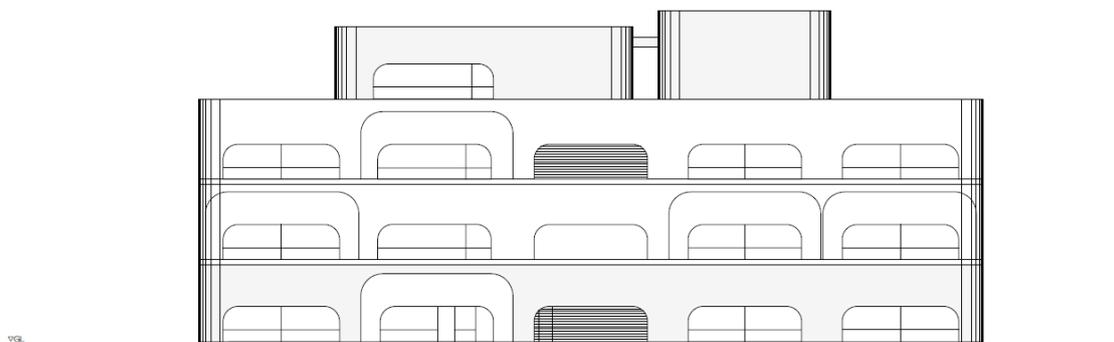
4.立面イメージ図



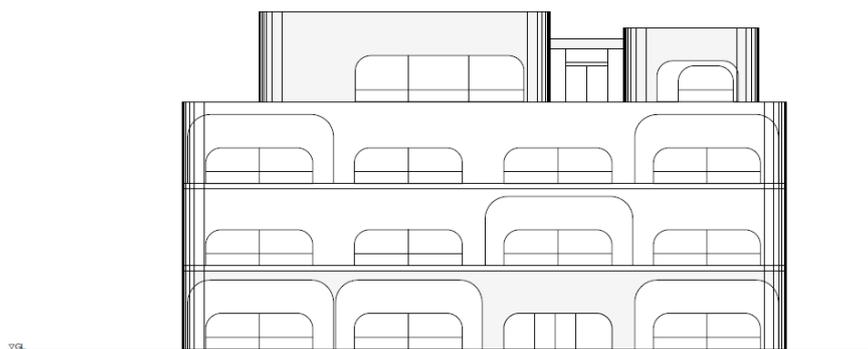
西側立面図



南側立面図

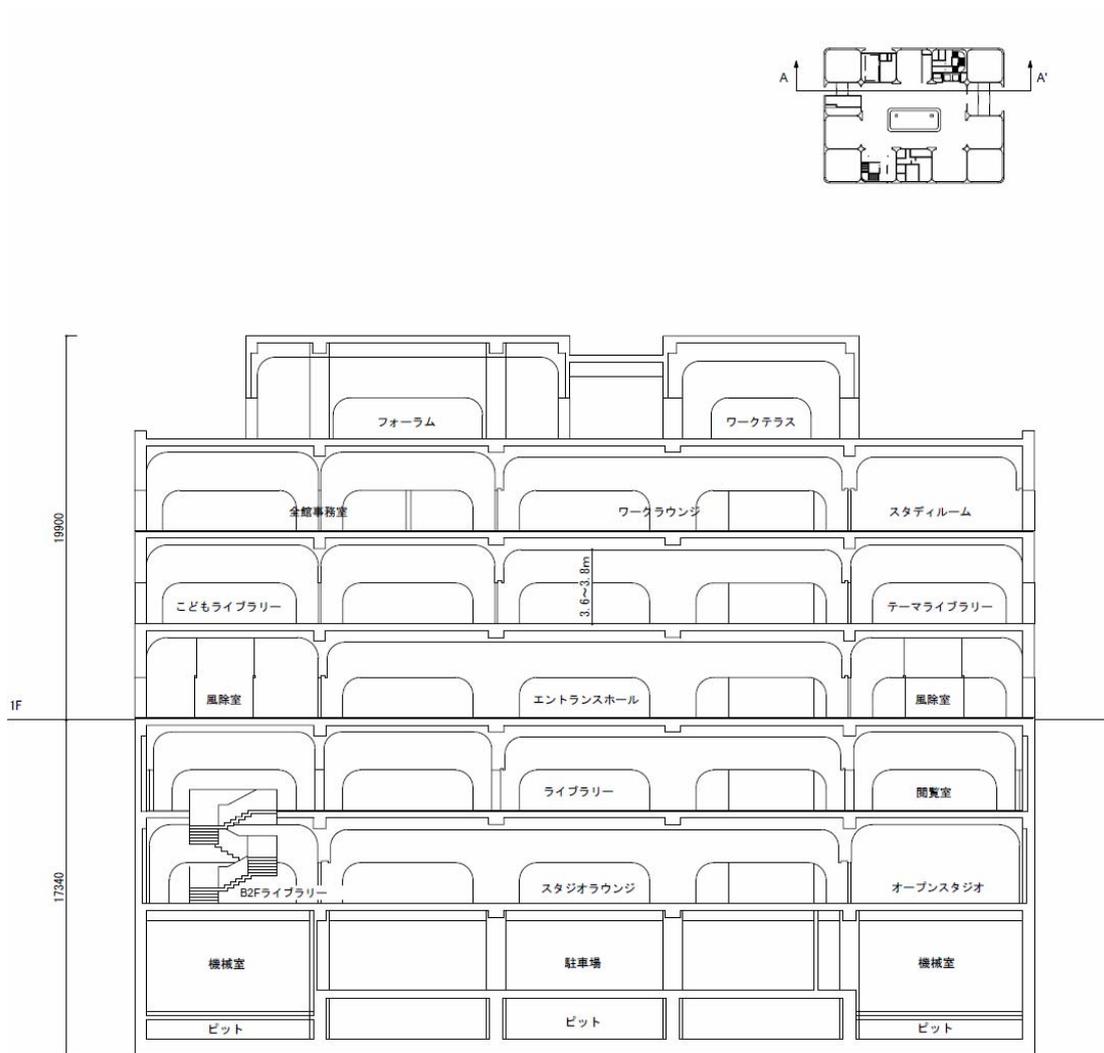


東側立面図

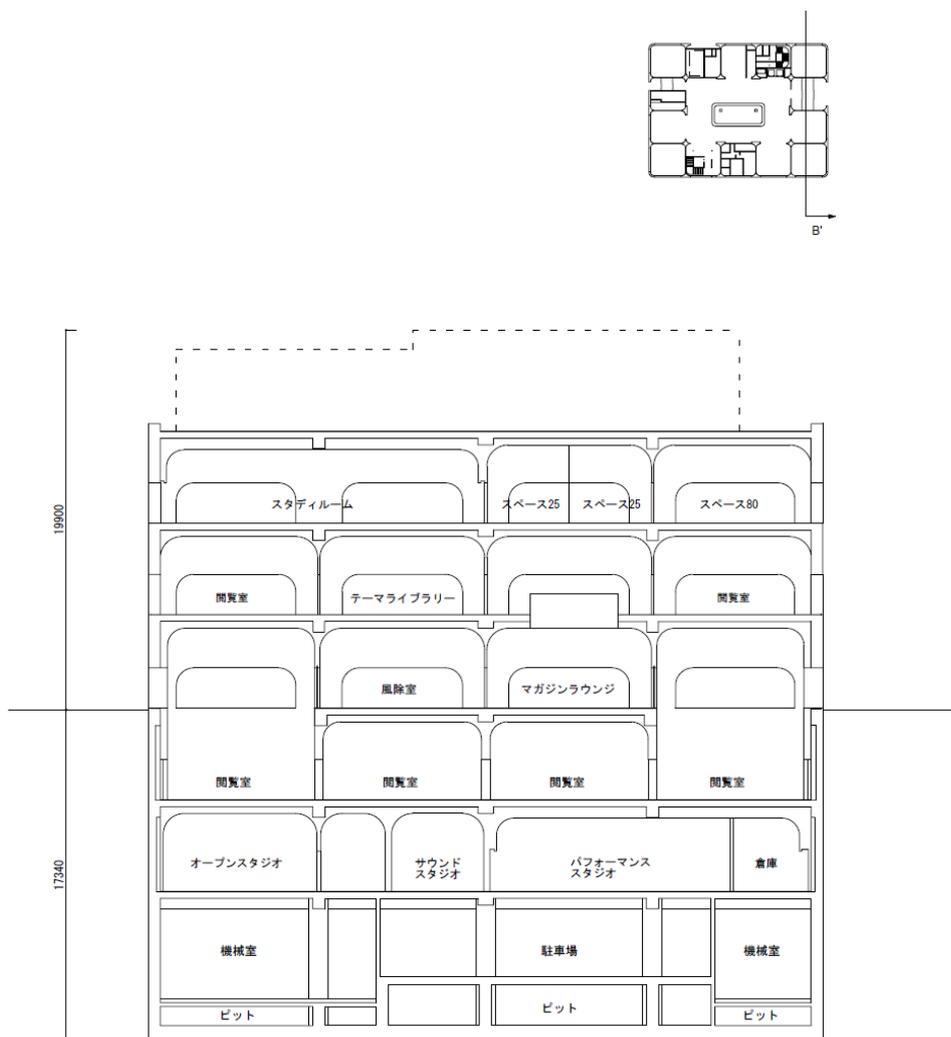


北側立面図

5.断面イメージ図



A-A'断面図



B-B'断面図

6.建物概要・面積表

名 称	武蔵野プレイス（仮称）		
計画敷地	武蔵野市境南町 2 丁目 3 番地		
用途地域	商業地域		
防火地域	防火地域		
敷地面積	2,166.20 m ²		
道 路	東	市道第 246 号線 法 42 条 1 項 1 号	幅員：15m
	南	市道第 73 号線 法 42 条 1 項 1 号	幅員：16m
	西	市道第 74 号線 法 42 条 1 項 1 号	幅員：6.36m
		（都市計画道路 武 3・4・27 幅員：16m 法 42 条 1 項 4 号 指定予定）	
	公園北	市道第 72 号線 法 42 条 1 項 1 号	幅員：5.5m
建築物用途	図書館ほか		
建 蔽 率	73 % （ 許容建蔽率 100 %（建基法 53 条 5 項による））		
容 積 率	458 % （ 許容容積率 500 %）		
建築面積	1,591 m ²		
容積対象床面積	約 9,010 m ²		
	1F 約 1,180 m ²	2F 約 1,570 m ²	
	3F 約 1,570 m ²	4F 約 850 m ²	
	B1F 約 1,560 m ²	B2F 約 1,560 m ²	
	B3F 約 720 m ²		
延べ床面積	9,937 m ²		
階 数	地上 4 階 地下 3 階		
軒 高	GL + 19.9 m		
最高高さ	GL + 19.7 m		
構 造	SRC 造 、 RC 造		
駐車台数	31 台 （B3F：28 台 1F：3 台）		
駐輪台数	155 台（駐輪場：143 台 バイク駐輪場：12 台）		
昇降設備	エレベーター（一般用身障者仕様 ※1）13 人乗 60m/min 2 台 エレベーター（管理用）13 人乗 カゴ奥行 2m 60m/min 1 台 自動車専用エレベーター 積載量 2500kg 1 台 ※1 ユニバーサルドアシステム、車椅子仕様、視覚障害者対応仕様 ※ 各エレベーターは地震時、火災時 管制運転とする。		